

科目	「問2. この授業に触発されて、自分で考えたり調べたりしている。」及び「問3. 自分の興味や関心と関連づけながら授業に取り組むことができた。」から、学生の受講態度についてどのようにお考えですか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	学生の受講態度
L	国際関係という日常生活からかけ離れた別世界で起きている出来事が、実は私たちの生活に大きな影響を与えていることをまずは認識することから世界への扉は開かれるのだという観点に立てば、やや難しい課題に対しても意欲的に取り組めたのではないかと考える。	良い
L	前年度後期の受講生と比較して、かなり受け身の姿勢が目立った。毎回、受講する学生の態度の異なりに配慮して、そのたびごとに効果的な指導を模索できればベストだと考える。	普通
L	講義室が広すぎ、興味・関心の程度が著しく低いため、講義に集中しているとは到底思えない学生が大変多かった。昼食後の3限という時間とパワーポイントを使うために暗幕を使用したため、睡眠時間にあてている学生が多いことには閉口せざるを得なかった。	悪い
L	多くの学生が、積極的に取り組めたのでよかったですと思います。	良い
L	1限という時間であるにもかかわらず、遅刻や欠席が殆ど無いのは驚くとともに、興味関心の高い学生は教える側の励みになることを実感させられた。	非常に良い
L	少数の学生は積極的に取り組む 2回目には早くも「試験問題を教えて下さい」という学生が多かったので、手の打ちようがない。	普通
L	(無記入)	普通
L	興味のない一部の受講者を授業に参加させるための工夫が必要である。	普通
L	(無記入)	良い
L	基本的には良いのですが、一部の学生は落ち着きがない。たとえ学生から見て興味があまりなくても、布は生活に欠かせないものであり、誰にでも基本はしることが大事と思う。異なる民族の似たような布(wrapping cloth,風呂敷)を比較しておたかひの文化を理解する。暖簾の模様が持つメッセージを考える。	良い
L	学生は宇宙について少なからず興味を持っているが、知識の習得という観点においては受け身的であると感じた。	普通
L	講義内では、作品づくりを取り入れました。その際、工具や絵の具道具を忘れる学生が多かったです。自分の持ちものは自分で用意するという姿勢や素養を、教員が連携を図って養っていく必要があると思いました。	良い
L	学生の専攻内容を考えながら、レポートの課題を考えるのがいいのかもしれないが、これはむずかしい。	普通
L	問3に比べて問2に積極的な回答が少なかった。授業の終了時に、自習のためのヒントや参考情報を、与えるように改善したい。	普通
L	適宜、課題を出したり、小テストを行ったりして、学生を刺激し続けることが必要だと感じました。	普通

L	<p>学生のアンケートでは、両質問共に90%程度、「そう思う」の方向に回答をしているので、現状としては問題ない。</p> <p>試験的な授業であり、複数人で授業を担当したため、科目全体としての方向性があいまいになる部分が課題だと考えるので、今後は担当する教員間でよりコミュニケーションをとっていかうと思う。</p>	非常に良い
L	<p>そもそも本授業は、現代的課題の内の別の授業をあらかじめ選択していた学生諸君であって、急遽開講枠を増やす必要があつて設定したものである。そのため元々の関心からかなり外れた学生が受講していたことも、あまり熱心にあるいは意欲的に受講しようという態度が芽生えなかったことも原因していると感じている。</p>	普通

科目	「問13. この授業で設定された教育目標に到達できたと思いますか。」にかかわって、この授業のために設定された教育目標が、どの程度達成できましたか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	目標の達成度
L	もう少し具体的な目標を設定したい。	達成しきれなかった
L	半期という限られた時間内で5, 6個のテーマについて概要を理解し、自らの視点で表現するには困難な部分があったことは否めない。また、受講者数が50人前後と大人数であったことも個々の意欲、関心を引き出すのはなかなか難しいものだと痛感した側面もあった。今後は、さらに取り組むテーマを厳選し、クラス内で十分に理解を深めた上で個々の興味・関心について報告することでより充実した内容へと昇華していくことが求められていると思う。	普通
L	授業中に感じていた通り、受け身の受講生も見られ、この授業の目標を理解してもらうにはもう少し工夫が必要だと思った。授業の目標を達成するには、受講生に、いかに知識教授型の授業との違いを理解してもらうかがカギになると考える。	普通
L	この講義の主眼である「自身の考えを他人に分かりやすく説明する」を実践するために、数名にプレゼン発表をしてもらい、学生たちによる質疑応答を試みたが、聞く側が完全な部外者になってしまい質疑応答が成立しなかった。教員が司会進行するのではなく、学生に委ねてみるのも一つの方法論かもしれない。	達成しきれなかった
L	全体的には、学生が頑張ったので、良い回答がもらえたと思います。改善案としては、受講者数が多くても少なくとも対応できるように、シラバスを作るときに十分考えたいと思います。	達成できた
L	カリキュラムの柱の一つである「プレゼン発表」が、発表者の緻密な事前準備のため大いに盛り上がった。質疑応答に関してはやや物足りない面もあったが、聴取側の学生による発表内容・方法にたいする指摘も的確であった。課題としてはその指摘を発表者に直接述べる勇気をどう与えるのかが挙げられる。	十分達成できた
L	途中で肺炎に患って二週間年次休暇をとったので、次年度は健康に気をつけて、教育目標の達成に励む	達成しきれなかった
L	(無記入)	普通
L	マスコミで話題になっていることを、もう少し化学的に取り上げる必要があった。	普通
L	(無記入)	十分達成できた
L	今日の日本では、人は毎日服を着ているのに布に無関心である。素材の機能、織組織、染織の歴史的背景、や風土が生む布を知る。布が持つメッセージについて考える。研修や実技演習を通じて問題を発見し解決に向けて方法を考える力を身につける。学生たちは初めてスピンドルを作り、糸を紡いで、布を作って難しい部分もあったと思われるが最後に出来たものを鑑賞して喜んでおりました。	達成できた
L	期末課題として、小中学生を対象とした宇宙に関する解説模型製作を課した。大部分の学生が対象相手の目線にたった分かりやすい展示物を作成し、「ものづくり」を通じた情報伝達の重要性を感じてもらえたと思う。	達成できた
L	本来であれば、作品づくりに時間を費やし、本講義の科目名でもある「ものづくりリテラシー」を育む必要がありました。次年度以降は、時間配分に留意したいと思います。	達成できた

L	ネットで得られる情報の中には誤ったものもあることを、最初から具体的に提示できるようにしたい。問題のあるサイトがけっこう存在することに、学生のレポートを読んで改めて気が付いた。	達成できた
L	学生が興味を持つ話題を教材にできた回もあれば、そうでない回もあった。このため、問13に「そう思う、ややそう思う」の回答は1/3であった。もっと身近な話題を取り上げることができるように、教材を工夫する。	達成しきれなかった
L	(無記入)	普通
L	障害者に対する考え方、態度・行動を見直すことが本授業の目的であった。学生から集めた毎回のコメントシートや定期課題等を見る限りでは、伝わってほしいことは十分伝わったという結論できる。しかし、本質的に本授業の目標を達成するためには、座学ではなく、もっと障害者と密接に関わる機会が必要と考える。将来的にはサービスラーニングの一環として、NPOでのインターンシップ等の科目を設け、それと連動させながら、「学んだ」から「関わった」を実現したい。	達成できた
L	(無記入)	達成できた
L	知識を与えるという点では、一定の目標は達成できたと思っているが、各自が地球環境問題に対して「自ら環境問題改善のために行動する」というレベルにまで到達したかについては、不明である。”Think Globally, Act Locally“の前半については、ある程度目標達成を感じているが、後半の面ではまだ不十分ではないかと感じている。	普通

科目	「問15. 授業の難易度」、及び「問16. この授業のための週当たりの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
L	授業が難しすぎたというよりは、理解しようとする態度を醸成できなかったことを反省している。授業は簡単ではないと、シラバスに書いておくべきだった。
L	授業の難易度については「ちょうどいい」が半数を超えていることから、ほぼ問題ないものと思われる。学習時間についてもほぼ順当な時間が確保されているものと思われ、特に改善は必要ないものとする。
L	授業の難易度については、前回と比較して、より「ちょうどいい」に集中しているのが意外であった。学生自身が課題に真剣に取り組む姿勢が薄いと、授業をやさしく感じるという面が見て取れる。この点も、そのときの受講生に応じて臨機応変に指導を変えられるといいのだが、50人以上の授業では個々の学生への対応に限界を感じている。
L	授業の難易度としては半数近くの学生が「難しい」と回答しているが、その根拠は「興味・関心の無さ」に拠るものだと考えている。教養科目は単位を積み重ねるためだけ、取得さえできればよいという現実的な動機に基づく受講は、学生・教員双方にとって無益である。実際に「リテラシーはムダだと思う」という自由記述もあり、カリキュラムの枠組みを否定する学生がいることは今後の大きな課題である。高校までの受動的かつ到達目標の明確な教育に慣れてしまっている学生に、複数の視点から相対的に判断するという方法論を教授することの難しさを痛感した。
L	ほとんどの学生の学習時間が、1～2時間で、中には、3時間以上との回答もあり、とても嬉しかったです。ただ、一部に、「難しすぎる・学習時間なし」という回答があったので、個別に丁寧な指導する必要があると思いました。
L	授業の難易度の感想として「ちょうどいい」と「難しい」が拮抗しているのがこのクラスの特徴と考える。取り扱った題材はどれも日常生活の延長線上にあるものばかりであったが、それを「言語学」というフィルタを通すことにより、今までとは異なる性格を帯びることを実感してもらるように配慮したことをどう判断するかによって意見が分かれたと推測する。期末課題のテーマ選定も多岐にわたり、講義内容を完全外れてゼロから課題を設定する意欲的な学生が多かったのも特徴で、それらが週当たりの学習時間の長さには反映されたのではないと思う。学生の反応を見る限り、難易度、授業内容の量は適切であると判断した。
L	学生に前提となる知識が殆どないので、全体としての難易度は高いのではないかと。事前の準備として、西洋古典文献学、書誌学に関する知識を平易に解説したつもりであるが、関心のある学生は予習をしてきているのがわかる。質問をするのでわかる。
L	週当たりの学習時間が短いので難しく感じる人が多いようです。
L	学習時間が0時間の学生26%、1時間以内でも49%であることから、学習時間が全体的に不足している。次年度は学習時間が増加する様に、課題の出し方を工夫したい。
L	文系の学生には難しい内容であるので、理系の学生の半分のスピードでゆっくりと講義を進めた。イメージやエッセンスは伝わったと思う。
L	もう少し学習時間が増えるともっと深い知識が得られるでしょう。
L	物理を履修していない学生に対しても理解ができるように講義資料を準備したが、結局、受講学生の大部分が理系コースに所属していたため、少し平易すぎたかもしれない。また、宇宙に関する最新のニュースなどの収集方法などを紹介すれば、学生が自ら調べるきっかけとなったのではないと思う。

L	<p>問い15は、「ちょうどよい」という回答を50%まで向上させる必要があると思いました。問い16については、週あたり1～2時間が極めて少なかったため、適度な難易度のレポート課題の準備をする必要があります。</p>
L	<p>この二つの項目を比べると、難易度の「難しい」と「難しすぎる」の合計が16人(40%)であるのに対し、学習時間の「1時間以内」と「なし」の合計が18人(45%)であった。あくまでも数値の上での話ではあるが、勉強しない学生には難しかったということになり、結果としてふつうの授業だったということになる。勉強しない学生からも難易度が「ちょうどいい」などと評価されるような授業だけはしたくないと思う。</p>
L	<p>これまでの経験から、家庭学習はほとんどしないであろうと想像しており、そのために、できるだけ授業中に学習するようにした。レポート課題を5回出題したにもかかわらず、学習時間なしの回答が53%もあるのは、他人のレポートを丸写ししているのかもしれない。授業の難易度については適当と考えている。</p>
L	<p>授業の難易度を『難しい』『難しすぎる』と回答している学生が65%おり、週当たりの学習時間が『1時間以内』『なし』の学生が75%だったことから推測すると、難しくどこをどう勉強したらいいのかわからなかった学生もかなりいたのではないかと思われる。また、そのせいかあまりやる気を感じられない学生も若干見られた。今後は内容をより簡易で興味をひきやすいものに改善していく必要があると考えられる。</p>
L	<p>学生のアンケート結果によると、難易度は「ちょうどよい」と感じるものが最も多く(73%)、時間についても、週1～3時間かけて自宅で学習をする者が90%程度いることがわかる。学生からするとほどよい内容であったと考えられる。内容について、難しいと判断する者、あるいは、時間をかける者の多くは、かなり真剣に本授業に取り組んでいる者であったと、学生の受講態度から推察している。よって、今後も同程度の難易度になりたいと思う。</p>
L	<p>学生が講義のために積極的に学習したり、内容を容易に理解させられなかった点に関しては、講師側の教養科目の講義の経験不足である可能性が否めないと思っている。しかし、講義後に学生自身が作成したノートを見返したときに分かりやすいような、キーワードの説明の文章化および配布プリントのカラー印刷などの工夫を行っている。 また学生の遅刻が多数みられたことから、学生自身の授業に臨む積極性の薄さを感じられ(おそらく希望でない学生がいる)、問15および16の評価に影響した可能性が考えられた。 教養科目を受講する意義を学生がしっかり理解できるような機会を充実させる、もしくは学生自身の意欲を高める取り組みを行うことで改善されるのではないかと思われる。</p>
L	<p>難易度については、62%の学生が「ちょうど良い」と回答しているが、「難しい」とする者も17%程度ある。環境問題はある部分、自然科学的内容と社会科学的内容とが、混在しており、専攻によってその違いが現れたのではないかと感じている。 週あたりの学習時間については、48%の学生が「なし」と回答(1時間以内が33%)しており、何らかの課題を宿題として課すような手立てを講じなければならないと感じている。シラバスには事前学習の指示を示しているが、ほとんどの学生はそれを見えていないと思われるので、毎回とまではいわずとも数回に1回は小レポートとして課すなどの手立てが必要である。</p>

科目	どのような基準で学業成績の結果を出されましたか。提出された成績評価も踏まえてご記入ください。
L	人の意見をまとめただけのレポートよりは、自分の言葉できちんと考察されているレポートを高く評価した。この評価基準は、授業のはじめにきちんと説明した。
L	授業の最後に提出した小レポート、発表会での報告内容やギャラリーの反応、さらに期末レポートの内容を加味して、自らが設定した国際関係に関する課題に対してどこまで迫ることができているか、という観点で総合的に評価を行った。期末レポートに関しては、全体的には自らの力で調査・研究し、まとめることができていたように思われる。
L	授業中の課題レポートを中心に、質疑応答、授業への出席率などを加味して評価を行った。
L	教員が指示した課題(提出締切等を含め)をすべて満たしたかどうかを単位認定の基準にした。講義の中で繰り返し指示・説明を行ったため、出席している学生の多くが単位認定の基準を満たしており、満たさなかった学生には個別に理由を説明し、学生の納得を得た。各評価に関しては、講義を踏まえ、学生自身が問題提起をし、最適と思われる方法を経て、自身の意見を醸成しているかを基準に判定した。講義内での説明に終始してしまう、まとめの域を出ない学生に対しては(単位認定されたものの)少々手厳しい判定になった。
L	プレゼンテーションの内容で成績を出しました。一部ですが、授業態度の悪い学生の評価は低くしました。
L	指定した古典のテキストから選択(各自)して、それを事前に読ませた。ある答案にあったように、この時間は新しい知識は増えないが、きちんと考えを深める訓練になる、ことを意図していた。テキストを事前に読みながら、各自の経験が踏まえられているかを、採点の基準とした。全体として出来が良かったと思う。
L	成績の基準は中間テスト40%期末テスト60%。
L	提出したレポート50点、授業のコメント50点の計100点満点で評価した。 ・多様な自然現象や進歩する科学技術を理解するために、自然科学の基本的な知識や概念を理解しているか。 ・知識や概念を活用する能力があるか。 ・科学技術に深く根ざす今日の社会を生き抜くために、科学や技術に関わる政策や日常生活に関する問題に興味・関心を持ち、意思決定や行動をする力を身に付けられたか。
L	出席、レポート、試験結果を総合的に判断した。
L	出席、授業態度、レポート内容、作品の出来倍(自分の工夫)や締め切りの守りかたなど。
L	出席を含めた受講態度と期末課題の完成度を併せて総合的に評価した。特に期末課題では、どれだけ対象相手を意識したものになっているか、という点とアイデアの独自性に重点を置いて評価した。
L	レポート・日々の態度・出席回数をシラバスに準じて、各学生の成績を出しました。
L	レポート4回(口頭発表の担当者は3回)と授業内で書かせた小レポートの内容で評価した。ネットからの情報を整理もせずただ引用するのを避けるため、レポートはすべて手書きで書かせた。字がきたなくて読みにくいレポートもあったが、次回からは字の読みやすさも評価の対象としたい。 レポートでは主として、本やネットで得た情報が整理されているか、論理的にまとめられているか、を中心に評価した。小レポートでは、女ことばや方言使用など誰でも回答できるアンケート風の課題が多かったが、読む人が納得できるような説明がされているかどうか、を評価した。
L	5回の課題レポートと2回の授業内レポートの成績の合計。 不合格者の多くは、レポートの提出が3回未満であった。 評価はSとAで30%、Bが22%、Cが27%で、適当な分布であると考えている。

L	授業内容に関する試験の結果で判定した。また、勉強しやすいように出題予定問題をある程度予告しておいた。
L	出席、発言、課題提出、ワークショップへの参加を踏まえた、総合的な参加態度を一番重視した。次いで、中間及び最終課題レポートの質が本授業の目標に合致しているか否かを考慮し、成績を決定した。
L	筆記試験の成績、2回分のレポートおよび出席状況を各々40%、40%および20%の配分で採点して、3つの採点結果を合わせて評価して成績を出した。
L	試験は選択式の試験を実施した。授業の全範囲から出題した。試験に際して持ち込みは一切認めなかったため、あらかじめ学びネットにアップしている講義資料をもう一度しっかり学習しておくように指示した。選択式(マークシート方式)であるため、難易度としては難しいものではないと考えている。他に欠席をその日数に応じて減点した。約7%の者が不合格となった。

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
L	活発なディスカッションのために何が必要か、もう少し検討したい。
L	パワーポイントによる資料の照射、視聴覚教材の活用といった、視覚を重視した授業を進めている。さらに、教授する側の唯我独尊にならないように、適宜、授業内容に関する小レポートを実施することで、学生の理解度を把握した上で授業を進めている。
L	「言語」という日常生活とは切っても切り離せない対象を題材にしている講義であるため、学生の興味・関心を惹起する話題を探すことの必要性を意識し、毎回の講義後の質問・感想を講義の中にどう取り込むかを工夫した。多くの学生が休憩時間や学生同士の雑談のなかで、マンガ・アニメを話題に上げていることから、その中で行われている言語活動と日常の言語活動では異なるメカニズムが働いている点を紹介したところ、多くの学生に支持を得たのが最も大きな収穫であった。また、例年興味関心の高い「ら抜き言葉の是非」、「方言差」というテーマも取り上げたため、カリキュラムの後半は「世界の諸言語」という科目であるにもかかわらず、「日本語」に限定された内容ばかりになってしまったことは反省点である。
L	受講者数が予想以上に多かったため、プレゼンテーションの時、自分がシラバスを作った時にイメージした、個別的な指導が十分にできなかったため、グループ分けなどを工夫したり、メールのやりとりで、コミュニケーションを取るようになりました。
L	一方的な語りの授業にならないようにしている。アメリカでよく見られる(例えば、「白熱教室」のM. サンデル)ように、対話形式で授業を進めている。進度をある程度犠牲にせざるを得ないし、指導目標の達成には追いつかないことが多いが学生には好評な授業方法だと思う。
L	授業内容が理解しやすい様に、分子模型を利用した。また、他者と協力して行動できるようにするために、クラス全体で協力する様な分子模型作成を試みた。
L	染織工房での授業と比べてかなり様子が異なります。 LAの学生たちに学んでもらいたい染織技術内容に少しでも手を使う部分を取り入れたいのですが、与えられた教室と学生人数によって部分的に難しいと感じている。
L	座学によって習得した知識を、製作活動を通して実際に利用し、両者の繋がりを体感できるように心がけている。
L	(2)で書きましたように、毎回の講義では、必ず、「本時のねらい」を伝え、学生自身に問いを持たせ、その問いを解決するための授業展開を心がけました。そして、その問いに正対した「まとめ」をしてから講義を終える努力をしました。
L	授業で使用する本の概要は、ネットで簡単に検索できるのであるから、レポートではできるだけ具体的な課題を与えて、本の内容についてまとめさせるようにしている。また、引用などの仕方、参考文献の挙げ方などもプリントを配って説明し、その後はレポートの評価対象にも加えた。
L	今回が初めての授業で、試行的な面があった。 この授業の目的は、大学生に対する思考力の育成である。 大学生レベルに適した教材を工夫して、今後も授業を続けてゆきたい。
L	障害への招待については、その名の通り、障害について考え、障害者との関わりを再考し、態度を育むことにある。このため、私の授業の他、個人研究費でゲストスピーカーを呼び、障害当事者との関わりを授業の中で数回設けた。本当は、障害当事者、その家族、そして、支援者などより様々な立場の方を呼びたい。が、個人研究費には限りがあるので、たくさんは呼べない。
L	コメント用紙に記入させた、学生の講義内容における疑問点から、過半数以上が理解できていないと思われる内容に関しては、シラバスの予定を変更して違う角度からの説明を行うことで疑問の解消に努めた。 また、講義最初および最後の2回出席を取る形をとることで、講義の途中抜け出しの防止に務めた

L	<p>授業の方法としては、毎回パワーポイントによる説明を行った。したがってほとんど黒板を使用することがなかった。また時々、環境問題に関するビデオ(録画したテレビ番組)の視聴を行った。今後はもう少しそれを増やしたいと考えている。また教室でのインターネットを介した情報も取り入れたことがあった。これももっとスムーズに取り入れることができるよう工夫をしたいと考えている。</p> <p>授業における講義使用については、今年度からはじめて、学びネット上での資料を準備することとし、毎回授業開始の遅くとも前日朝までには、ネット上に掲載するよう努めた。全体ではA4で80~90ページの講義資料になった。この方式は今後も継続していく予定である。一番の課題は、受講者とのコミュニケーション(質疑、討論、コメント用紙、ネット等)の充実を図ることである。人数も50名近くになると討論も難しく感じている。質問については、最後にならず「質問はありませんか?」と聞いてはいるが、反応はない。今後の課題である。</p>
---	---